

●新潟県新潟市立新潟小学校

PISA型読解力の理解促進に、 2色プリントを活用して大きな効果。

教育現場では、PISA型読解力の向上に強い関心が向けられています。
新潟市立新潟小学校では、先生方が独自に作成したPISA型テスト問題を
2色デジタル印刷機で制作。
2色で表現することで子どもたちの問題に対する理解力が増し、
結果、学力の向上にもつながっています。



伊藤 充校長

印刷サンプルを分類・整理・ 分析し、フィードバックする

タンポポ学校の愛称で地域から親しまれている新潟市立新潟小学校（伊藤 充校長）。特別支援学級3クラスを含め22クラス、567名の児童が学んでいます。研究助成校として2色デジタル印刷機を導入したのは、平成19年。その動機を伊藤校長が語ります。

「プリントは学力向上や子ども・保護者とのコミュニケーションの核となる存在です。学校のプリントといえばこれまで単色だけでしたが、2色プリントでは赤や青も使える。紙の色の変化も考えれば、色のバリエーションがたいへん豊かになります。これは学力、コミュニケーション力の向上にすごい力を発揮できると考えたのです」
導入後、さっそく栗田貫先生を活用担当に、さまざまな実践活動が始まりました。
あらかじめどのように使うか決めるのではなく、先生ごとに

自由に使い方を考えて2色でプリント。印刷サンプルはすべて印刷機の横の箱に残すことにしました。そして、その印刷サンプルを栗田先生が分類、整理。その上で、使い方の情報提供や提案を先生方に行うという方法をとりました。

各教科の教材や学級日より、保健日より、学校日よりなどに2色プリントが広く実践されていきました。そして、そうした中で、「PISA型のテスト問題に2色プリントを使い、子どもたちの理解をサポートしよう」という試みが進められました。

PISA型問題を みんなでつくる

PISA型読解力では、知識の量だけでなく、知識の活用や答えを出すまでの道筋、自分の言葉による表現能力が求められます。

市販のテスト問題では適当なものがないため、問題作成は先生方の「創作」となりました。

手分けして文部科学省の全国学力調査（B問題）などを分析し、討論しながら、独自の問題をつくったのです。

1年生の国語を例にすれば（作例参照）、新潟小学校に転校してくる子どもからの手紙を読み、問題に答える形式です。問題一では、選択式で手紙の内容を問います。同二では、転校生の聞きたいことに作文で答えます。

問題は子どもたちの学力などに応じて3種類用意しました。

作例（左ページ①）のように1色プリントでは問いのポイントがなかなか分からない子どもも、作例（左ページ②）のように、ポイントが赤でプリントされると理解が速くなります。

さらに、作例（左ページ③）では、転校生の手紙の一部分（転



栗田 貫先生

